



Title	目で見るWHO 第91号 表紙・目次等
Author(s)	阪田, 敦視
Citation	目で見るWHO. 2025, 91, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/101033
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目で見る WHO

2025 冬号



No.91

Visual Journal of Friends of WHO Japan



公益社団法人

日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	阪田 敦視
P2	巻頭特集	
	Ending TB;取り残された人々に診断と治療を一結核対策の進捗と課題	小野崎 郁史
P6	セミナー・イベント報告	
	1. 国際保健と災害:	甲斐 達郎
	国際保健の視点から考える、災害対応と被災者の健康	高岡 誠子
		石上 美桜
	2. 世界肝炎デー 佐賀県における取り組み	井上 香
		高橋 宏和
P14	NGO・団体紹介	
	「医療を通じて、愛を世界へ。」日本キリスト教海外医療協力会の働き	森田 隆
P16	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 名古屋市立大学大学院看護学研究科	樋口 倫代
	2. 高知県立大学看護学部	木下 真里
P20	留學生日記	
	ジョンスホプキンス公衆衛生大学院留学にて 役立ったこと、身についたこと	富山 幸一郎
P22	WHO職員日記	
	WHOでのお仕事	瀬戸屋 雄太郎
P24	WHOニュース 7月／8月／9月	林 正幸
		渡部 雄一
P30	関西グローバルヘルス(KGH)の集い	
	オンラインセミナー第9弾 第1回:My health, My right～人権を考える～	蕨 彰寛
P32	書籍紹介コーナー	中村 安秀
		福井 妙恵
P33	読者アンケートの結果報告	
P34	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P36	WHOの地域事務局と加盟国	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ	山田 絵里
P38	入会案内	

ごあいさつ



日本WHO協会理事
株式会社プロアシスト 代表取締役社長
阪田 敦視（さかた あつし）

1948年に発効されたWHO憲章の前文には「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（日本WHO協会訳）」と書かれていて、肉体的、精神的な面が元気であっても、社会と健全なつながりを持てなければ健康ではないと定義しています。

以前、不注意で転倒して右腕を骨折したことがあり、術後は利き腕である右腕を思い通りに動かすことができなくなりました。一時的とはいえ体が不自由になったことによる肉体的、精神的負担は大きかったですが、不自由ではない左腕を主に使って生活していると右利きであれば当たり前で気にならなかったことにも不便さを感じました。ハサミ、カメラ、自動改札、自動販売機等々、左利きの方にとっては不便さを感じるモノが多く、身体が不自由であるかどうか、利き手がどちらであるかに関係なく誰にとっても不便さを感じさせないモノやしくみばかりではないことを実感する良い機会となりました。

昨年、発行された新しい日本銀行券にも額面数字の大型化や券種毎に識別マーク、ホログラム・すき入れの形や配置が異なるといったユニバーサルデザインが採用されました。ユニバーサルデザインとは、全ての人が利用しやすいことを目指

した考え方であり、7つの原則が示されています。

- 原則1：誰もが利用でき容易に入手できる公平さがあること
- 原則2：自由度が高く利用者の能力に合わせて柔軟に利用できること
- 原則3：シンプルであり特別な理解や習熟を必要とせず簡単に使えること
- 原則4：必要な情報がわかりやすいこと
- 原則5：フェイルセーフで設計され安全に使えること
- 原則6：身体への負担が少なく楽に使えること
- 原則7：使いやすい広さや大きさを確保すること

弊社はシステムの設計開発を社業とし「健全なデジタル社会の実現に貢献する」というパーパスを掲げています。人と人、人と社会が健全に繋がるシステムとはどのようなものであるかを考えるヒントがこれらの原則にあると考えています。デジタル社会においては正確な情報を誰にでもわかりやすく伝えることが重要になっています。皆様との双方向でのコミュニケーションを大切にしながら、これからのデジタル社会と健康の在り方を真摯に考え、誰もが健全なつながりを持てる社会の実現に邁進する所存です。

2025年1月